

判例第46/2021/AL号¹

「児童に対するわいせつ罪」における「犯罪者が教育する責任を負う児童に対する」場合の刑罰の事情の確定について

2021年11月25日に最高人民裁判所裁判官評議会により採択され、最高人民裁判所長官の2021年12月31日付決定594/QĐ-CAにより公表された。

判例の源:

被告人ディン・クアン・Dに対する「児童に対するわいせつ罪」事件に関する最高人民裁判所裁判官評議会の2020年8月7日付け監督審決定第12/2020/HS-GDT

判例の内容の位置:

「裁判所の認定」部分の第3段落及び第4段落

判例の内容の概要:

- 判例の事実:

被告人は被害者が勉強していた場所の教員で、直接教えていなかったが、被害者にわいせつ行為をした。

- 法的解決策:

この場合、裁判所は、「犯罪者が教育する責任を負う児童に対するわいせつ」（2015年刑法第146条2項d号の「16歳未満の者に対するわいせつ」の「犯罪者が教育する責任を負う児童に対するわいせつ」）の刑罰につき、被告人を「児童に対するわいせつ」（1999年刑法第116条2項c号）罪に確定しなければならない。

判例に関連する法令の規程:

- 1999年刑法第116条2項c号の「児童に対するわいせつ」罪（2017年に修正・補充された2015年刑法第146条1項、同2項d号）。

- 教育訓練省が2011年3月28日に「中学・高校等の定款」に添付して発行した通達12/2011/TT-BGDĐT第31条1項d号、同e号

判例のキーワード:

「被害者児童が勉強する場所の教員」、「児童に対するわいせつ」、「16歳未満の者に対するわいせつ」、「犯罪者が教育する責任を負う」

事件の内容:

以前から二人は知り合いだったので、2017年4月20日7時30分ころ、グエン・ティ・T（2001年8月30日生まれ）、高校一年生、は携帯電話を使って、その学校の教員であるディン・クアン・Dにメッセージを送り、Dの部屋に遊び行くことを約束した。

¹ この判例は最高人民裁判所裁判官5人からなる合議体が提出した。

約束後、Tは歩いて教員集合区のDの部屋に行き、Dの部屋で、Dは誰かが通り過ぎるのが怖かったので、ドアを閉めてTの手を握って手相を見た。この時、DはTの肩に腕を回し、腰を抱き寄せたが、Tが反応しないのを見て、自分の要求を満たすためにTに近づきたいと考えた。Dは、Tにキスをし、Tをベッドに引きずり下ろし、Tと一緒にベッドに横になり、キスを続け、手でTのお腹や胸を触り、その後、手でTのズボンのボタンを外し、Tのファスナーを下ろした。Dは左手でTの性器に触れた。Tは同意していないので、Dの手を引き離し、ズボンを引き上げた。DはTのズボンのファスナーを下ろし続け、Dが履いていたズボンの前を引き下げて陰茎の一部を露出させ、Tの腰に触れた。TがDを押しつけると、Dのズボンから勝手に飛び出した陰茎をパンツの中に押し込んだ。DはTの膝の上に座り続け、両手でTの頬をさすったが、TはDを押しつけ、立ち上がって髪や服を整えて、家に帰ると言った。Dは後ろにまわってTを抱き締め、Tが出て行くようにドアを開けた。その後、Tは家族にDが行った性的虐待について話した。2017年4月3日、Tの母親であるチャン・ティ・Hはディン・クアン・Dの行為を告発した。

2017年7月7日の番号166/TTPYの法医学鑑定の結論において、G省法医学鑑定センターは、グエン・ティ・Tは身体的損害を受けていないとした。

2017年10月2日の第一審刑事判決書、番号55/2017/HSSTにおいて、チュー・プロン県人民裁判所は1999年刑法第116条1項、第46条1項h号、p号、s号及び同2項を適用して、ディン・クアン・Dを「児童に対するわいせつ」罪で懲役7か月とした。

2017年10月2日、ディン・クアン・Dは減刑と執行猶予を求めて控訴した。

2017年12月29日の控訴審刑事判決、番号97/2017/HSPTにおいて、ザーライ省人民裁判所は、1999年刑法第116条1項、第46条1項h号、p号、s号、同2項、第60条、2015年刑法第51条1項x号を適用して被告人ディン・クアン・Dの控訴を認容し、第一審判決を修正して懲役7か月だが執行猶予を付した。

2018年4月6日、ダナン市高級人民検察院の長官は監督審の申立、番号48/QĐ-VC2、をして、ディン・クアン・Dの犯罪行為は1999年刑法第116条2項c号が規定する重い「犯罪者が教育する責任を負う児童に対する」ことを理由に第一審判決及び控訴審判決を破棄することを提案した。

2018年10月23日の監督審決定、番号55/2018/HS-GĐTにおいて、ダナン市高級人民裁判所裁判官委員会は第一審を維持した。

2019年10月23日の異議申し立て、番号13/QĐ-VKSTC-V7において、最高人民検察院長官は、ダナン市高級人民裁判所の2018年10月23日の監督審決定、番号55/2018/HS-GĐT、及び2017年12月29日のザーライ省人民裁判所の控訴審刑事判決、番号97/2017/HSPTに異議申し立てをすることを決定した。最高人民裁判所裁判官評議会は監督審の手続に従ってチュー・プロン県人民裁判所の2017年10月2日の第一審刑事判決、番号55/2017/HSSTとザーライ省人民裁判所の2017年12月29日の控訴審刑事判決、番号97/2017/HSPTとダナン市高級人民裁判所の2018年10月23日の監督審決定、番号55/2018/HS-GĐTを破棄して、法令の規定に従って再度、第一審を審理することを提案した。その理由は以下のとおり。

“ダナン市高級人民裁判所は、1999年刑法第116条2項c号が規定する「教育の責任を有する者」とは被害者に対して直接的に教育する教師、又は主任教員である、と理解した。この事件において、被告人ディン・クアン・Dは被害者グエン・ティ・Tの教員であるが、両者は直接教育する関係にないので、ディン・クアン・Dを処罰するために1999年刑法第116条1項を適用した。上記のダナン市高級人民裁判所の認定及び決定は刑法適用の重大な誤りである。なぜなら、ディン・クアン・Dは、グエン・ティ・Tが生徒であるL高校の地理教師である。教育訓練省が中学・高校等の定款に添付して発行した2011年3月28日付通達12/2011/TT-BGDDT第31条1項d号、同e号の規定に従えば、教員の任務は学生の正当な権利・利益を擁護して、学生教育において主任教員、他の教員と協働することである。それにより、学校の教員の資格に基づき、Dはグエン・ティ・Tを含む学校の学生全員を教育する責任を負う。ディン・クアン・Dの犯罪行為はL高校の教員全体の威信に嚴重な悪影響を及ぼした。このため、ディン・クアン・Dの犯罪行為は刑法第116条2項c号が規定する「犯罪者が教育する責任を負う児童に対する」場合として立件され、審理されなければならない。

チュー・プロン県人民裁判所が1999年刑法第116条1項を適用して、ディン・クアン・Dを懲役7年の処罰を科したのは被告が実施した行為の性質、程度と見合っていない。控訴審判決と監督審決定は、被告人の父親が烈士であるとして2015年刑法第51条1項x号を追加適用したのは正しくない。同時に被告人に執行猶予を付したのは、今日複雑化し、世論から特別な注目を集めているこの種の児童に対する性的虐待犯罪と戦うという要請に適合しない。”

監督審の審理において、最高人民検察院の代表は、最高人民裁判所裁判官評議会が自らの異議申し立てを認容すること、チュー・プロン県人民裁判所の2017年10月2日の第一審刑事判決書番号55/2017/HSST、ザーライ省人民裁判所の2017年12月29日の控訴審刑事判決番号97/2017/HSPT、ダナン市高級人民裁判所の2018年10月23日の監督審決定番号55/2018/HS-GDTを破棄して、法令に従って第一審の再審理を提案した。

裁判所の認定:

[1] 事件記録中の資料に基づき、ディン・クアン・Dを「児童に対するわいせつ罪」で審理した第一審裁判所、控訴審裁判所は根拠があり、正しい。

[2] 刑罰の詳細に関して：ダナン市高級人民裁判所裁判官委員会は、Dは直接グエン・ティ・Tを教えている教員ではないので、1999年刑法第116条第116条2項c号が規定する「犯罪者が教育する責任を負う児童に対する」場合を適用しないとしたのは法令上正しくない。

[3] ディン・クアン・DはL高校の地理教師である。2017年3月26日、Dは民族学校の寮の区域に行き、寮の裏で男子生徒たちにバナナ切りを手伝うよう頼んだとき、女子生徒の部屋で遊んでいるTに会い、Tが高校1年生であることを知った。それ以来、DとTはメッセージを送信しあうようになった。2017年4月20日、TはDの部屋に行って遊ぶことをメッセージし、DはTに対するわいせつ行為をした。それにより、Dは約1週間前からTがL高校の学生であることを知っていたことになる。

[4] 教育訓練省が2011年3月28日に発行した「中学・高校等の定款」に添付して発行した通達12/2011/TT-BGDDT第31条1項d号、同e号に従えば、教員の任務は学生の正当な権利・

利益を擁護して、学生教育において主任教員、他の教員と協働することである。それにより、学校の教員の資格に基づき、Dはグエン・ティ・Tを含む学校の学生全員を教育する責任を負う。そのため、Dには1999年刑法第116条2項c号が規定する、重い「犯罪者が教育する責任を負う児童に対する」場合が適用されなければならない。

[5] チュー・プロン県人民裁判所が1999年刑法第116条1項を適用して、ディン・クアン・Dを懲役7年の処罰を科したのは被告が実施した行為の性質、程度と見合っていない。控訴審判決と監督審決定が、2015年刑法第51条1項x号を追加適用したのは正しくない。なぜなら退役軍人記録によれば被告人の父は烈士ではないからである。同時に被告人に執行猶予を付したのは、今日複雑化し、世論から特別な注目を集めているこの種の児童に対する性的虐待犯罪と戦うという要請に適合しない。

[6] それにより、2019年10月23日の異議申し立て、番号13/QĐ-VKSTC-V7において、最高人民検察院長官は、ダナン市高級人民裁判所の2018年10月23日の監督審決定番号55/2018/HS-GĐT、及び2017年12月29日のザーライ省人民裁判所の控訴審刑事判決番号97/2017/HSPTに異議申し立てをしたことは必要なことであり、チュー・プロン県人民裁判所の2017年10月2日の第一審刑事判決書番号55/2017/HSST、ザーライ省人民裁判所の2017年12月29日の控訴審刑事判決番号97/2017/HSPT、ダナン市高級人民裁判所の2018年10月23日の監督審決定番号55/2018/HS-GĐTを破棄して、法令に従って第一審の再審理をすることが必要である。

上述を踏まえて、

決定

2015年刑事訴訟法第388条3項、同第391条及び同第394条に基づき、

1. ダナン市高級人民裁判所の2018年10月23日の監督審決定番号55/2018/HS-GĐT、及び2017年12月29日のザーライ省人民裁判所の控訴審刑事判決番号97/2017/HSPTに対する最高人民検察院長官の2019年10月23日の異議申し立て番号13/QĐ-VKSTC-V7を認容する。

2. チュー・プロン県人民裁判所の2017年10月2日の第一審刑事判決書番号55/2017/HSST、ザーライ省人民裁判所の2017年12月29日の控訴審刑事判決番号97/2017/HSPT、ダナン市高級人民裁判所の2018年10月23日の監督審決定番号55/2018/HS-GĐTを破棄して、法令に従って第一審の再審理をする。

3. 事件書類を第一審の再審理のためザーライ省チュー・プロン県人民裁判所に移送する。

判例の内容

“[3] ディン・クアン・DはL高校の地理教師である。2017年3月26日、Dは民族学校の寮の区域に行き、寮の裏で男子生徒たちにバナナ切りを手伝うよう頼んだとき、女子生徒の部屋で遊んでいるTに会い、Tが高校1年生であることを知った。それ以来、DとTはメッセージを送信しあうようになった。2017年4月20日、TはDの部屋に行き、遊ぶことをメッセージし、DはTに対するわいせつ行為をした。それにより、Dは約1週間前からTがL高校の学生

であることを知っていたことになる。

[4] 教育訓練省が2011年3月28日に発行した「中学・高校等の定款」に添付して発行した通達12/2011/TT-BGDDT第31条1項d号、同e号に従えば、教員の任務は学生の正当な権利・利益を擁護して、学生教育において主任教員、他の教員と協働することである。それにより、学校の教員の資格に基づき、Dはグエン・ティ・Tを含む学校の学生全員を教育する責任を負う。そのため、Dには1999年刑法第116条2項c号が規定する、重い「犯罪者が教育する責任を負う児童に対する」場合が適用されなければならない。”